



第58回全国青年農業者会議で 農林水産大臣賞受賞

せとやま たかゆき
瀬戸山 貴行さん(39)

お茶は嗜好品。飲んで初めてその良さがわかる。だから、いろんな場所でお茶の良さを広めたい。

今後の農業を担う若手農家が集い、情報共有などを行っている小林市SAP会議。そのメンバーである瀬戸山貴行さん、39歳。

手作業だった茶園上の落葉除去を機械化し、経営改善につなげたことが評価され、全国青年農業者会議で最高賞の農林水産大臣賞を受賞した。

「仲間とのコミュニケーションがあつてこそその評価だと思っています」。

瀬戸山さんは、大学卒業後に祖父の代から続く茶業に就農。作業はほぼ機械化

していたが、茶園上の落葉除去だけは手作業のため、多くの時間を要していた。

ある日、同業の若手農家から送風式の虫を捕獲する機械があることを聞き、「この原理で落葉除去の機械化に繋がるかも」と考えた。

早速、既製の摘採機に自作の送風管を取り付けた機械を開発。実際に使用してみると、今までの1割程度の手間で作業が完了した。

「余った時間は、新たな管理作業などに充てることができ、収穫量増加につながりました」。

作業効率化や経費削減を実現した瀬戸山さんだが、最も大事にしているのは人とのつながりだと話す。

「人との交流で悩みを共有し、解決に向けて知恵を出す。そうすることで互いの更なる発展につながる」。今年、父から家業の経営を引き継いだ瀬戸山さん。

「お茶は嗜好品。見るだけでは味は伝わらず、飲んで初めて良さがわかる。だから、いろんな場所でお茶の良さを広めていきたい」。これからも、緑茶への愛情を胸に走り続ける。



写真①開発した機械を搭載して走る摘採機。「市内外からの視察が絶えない」と瀬戸山さん ②包装袋を開けた瞬間、やわらかな緑茶の香りが漂う

小林
小人
こばやしびと
Vol.88